

# 11 教員組織

## 進捗状況報告

		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考	
<b>○施策の目標の達成度を測る指標</b>											
指標1	専任教員1人あたりの学生数（ST比）	公開	×	○	人	10.5	10.3	11.3	10.9		
<b>○基礎的な状況を継続的に観測する指標</b>											
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	公開	×	○	%	100.0	95.2	100.0	92.9	
		教養教育	公開	×	○	%	57.1	42.9	42.9	53.8	
指標3	専任教員一人あたりの授業時間数	公開	×	○	時間	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照	
指標4	専任教員の年齢別構成（分布）	公開	○	○	→	→	→	→	→	大学基礎データ表21参照	
指標5	教員組織における女性教員の比率	公開	○	○	%	0.0	8.3	8.3	16.7		
指標6	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	公開	×	○	人	5	5	5	5	
		実験実習指導補佐・教務補佐	公開	×	○	人	4	4	4	4	
		授業補佐	公開	×	○	人	0	0	0	0	
指標7	本学出身の専任教員の構成比率	公開	×	○	%	72.7	66.7	66.7	58.3		
<small>注)全学的な視点、個別的な視点について            全学的な視点とは学長室の進捗状況報告シートに表示される項目            個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>											

2007年度から2008年度における教員異動に関しては、退職者 2名、転出（所属異動）1名、新規就任 3名であった。2008年度新規就任 3名（うち、30歳代 1名、40歳代 2名、国外を含む他大学出身 2名）を迎えたことにより、2006年度認証評価で指摘を受けていた専任教員の年齢構成比、出身校の割合のアンバランスは改善されたと考える。

年齢構成では、2008年 5月現在以下のとおりとなっている。

61-65歳：1名、56-60歳：2名、51-55歳：1名、46-50歳：3名、41-45歳：4名、36-40歳：1名、計12名

また、出身校別では、本学出身 7名（58.3%）、他大学出身 5名（41.6%）、計12名。本学出身者であっても、大学院の課程を他大学で修了したケース、あるいは他大学から本学大学院の課程に進学したケースも多い。

なお、新任教員のうち、1名は女性であるため、女性教員数も計 2名（16.7%）となった。

ティーチング・アシスタントの採用とその役割については、現在なお検討中である。

## 学内第三者評価

認証評価で指摘された、年齢構成のアンバランス、男女比、本学出身者の割合について改善が進んでいると認められる（大学基礎データ表21、基本的な指標データ110141より、神学研究科共通）。

教務補佐・教学補佐は事務または授業環境整備を主要な業務としているかもしれないが、実際の授業に接して将来教員として独立するための訓練を行うということも考えられる。大学院生をティーチング・アシスタントとして雇用するのも、それが主目的である。このような方向で補佐やTAのあり方を検討することも考慮されたい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
 TAの役割の検討は進行中ということであり、検討結果が待たれる。